

WGメンバー以外の委員からのダムWGに関する意見

10/3 原田委員(淀川部会)

ダムWG御中

冷水病にダムで対応せよというのはダムに対する過大要求

第1回WGの結果報告案を拝見していて、「魚の冷水病」にダムの技術で対応するというような記述があり、気になりましたので意見をのべさせていただきます。

そもそも冷水病の問題は、病気をもったアユの放流に端を発しているわけであり、そのようなアユを過去から放流し続けていることがまず第一の問題だと考えるのが普通であろうと思います。「やむをえず放流しつづけてきた」という漁協の実情があることは否定できませんが、病原菌を保菌したアユを放流することが常識的に考えておかしいというのは、いわれればだれしもなるほどと思われると思います。そして、漁業側がおかしなことを行ったことの結果についてまで、ダムに責任をもてという議論がおかしいことともいうまでもないと思います。

もちろん、冷水の対策としてのハードウェアの一つである選択取水設備は、本来の水温ではない温度の水を流しているダムを改善するという意味では、一般的重要性があり、冷水病問題がなくても、ないよりはあったほうが望ましいものです。しかし、他の施策との対費用効果等についての検討とその結果の公開は十分になされるべきと思います。

なお、県によっては、地場産の親をもちいて冷水病をもたない種苗を生産する等の、根本的な解決をめざした対応をしているところもありますが、残念ながら、京都府や三重県ではそれはおこなわれていないとききます。